

「スポーツ実施率・アクティブライフに関する 実態調査2020」結果について（速報版）

神戸商工会議所は、スポーツ産業振興事業の一環として、神戸市内の事業所における経営者・従業員等を対象に、2018年度より「スポーツ実施率・アクティブライフに関する実態調査」を実施している。今年、3年目となる2020年度の調査結果（速報版）をまとめた。

次年度も定点調査を行い、神戸におけるスポーツ実施率向上のための事業を展開する。

■調査概要

目的：神戸市内事業所における経営者、経営幹部、従業員の「スポーツ実施率向上」のための基礎資料とする。

期間：2020年10月26日（月）～11月13日（金）

対象：神戸市内の事業所に勤務する経営者、経営幹部、従業員等

回答人数：68社 1,720人（※2018年度 80社 2,365人、2019年度 70社 1,875人）

方法：WEBによるアンケート調査

調査リーダー：伊藤克広 兵庫県立大学 国際商経学部 教授（専門：スポーツ社会学、地域スポーツ推進政策等）
（神戸商工会議所 神戸スポーツ産業懇話会 世話人）

■調査結果の主なポイント

- 「週1日以上スポーツ実施率」は49.8%
2019年度より5.2ポイント上昇（2018年度41.8%、2019年度44.6%）
- 「1週間のスポーツ実施時間」は「150分以上」の人が23.6%
2019年度より1.7ポイント上昇（2018年度19.5%、2019年度21.9%）
- 「この1年間の運動・スポーツ実施場所」は道路・自宅・公園等が上昇
 - ・「道路」が32.5%（2019年度26.4%）
 - ・「自宅・自宅敷地内」が28.3%（2019年度19.3%）
 - ・「公園」が26.8%（2019年度22.0%）
- 「この1年間に直接現地でスポーツ観戦を行った人」は39.5%
2019年度より18ポイント低下（2018年度は56.1%、2019年度は57.5%）
- 新型コロナウイルス流行下における健康の変化は、「体重が増加した」34.7%、「ストレスが増えた」32.1%、「健康意識が高まった」22.2%、「適度な運動を心がけるようになった」16.5%。一方、「特に変化していない」は29.5%

■調査リーダー伊藤教授からのコメント

- ・スポーツ実施率、アクティブライフは向上している。
- ・新型コロナウイルス感染予防が可能な場所や施設で運動・スポーツを実施している傾向が見られる。
- ・新型コロナウイルス流行をきっかけに、健康意識の高まりや適度な運動への心がけが見られた。

■添付資料

1. 伊藤教授のコメント
2. 資料①結果概要（速報版）
3. 資料②結果（速報版）

以上

【本件担当】

- ・神戸商工会議所産業部 産業・国際チーム 大岩・竹下
TEL：078-303-5806 FAX：078-306-2348 E-mail：sport@kobe-cci.or.jp
- ・兵庫県立大学 国際商経学部 教授 伊藤 克広
E-mail：itokatsu@em.u-hyogo.ac.jp

2021年1月8日

「スポーツ実施率・アクティブライフに関する実態調査 2020」結果に関するコメント

伊藤克広（兵庫県立大学国際商経学部教授）

1. 「健康」「体力」「運動不足」について、一昨年度・昨年度と比べて大きな変化はない。
2. 「週1日以上スポーツ実施率」は49.8%、「1週間のスポーツ実施時間が150分以上」の「アクティブ層」は23.6%と、スポーツ実施率、アクティブライフに関してはともに向上している。
3. 「この1年間の運動・スポーツ実施場所」について、「道路（32.5%）」、「自宅・自宅敷地内（28.3%）」、「公園（26.8%）」、「山岳・森林・海・湖・川等の自然環境（20.3%）」といった新型コロナウイルス感染予防（密閉・密集・密接の回避）が可能な施設で運動・スポーツを実施していることがうかがえる。
4. 「みる」スポーツについて、直接「観戦しなかった」が60.5%を占めているのは新型コロナウイルス流行のために様々なスポーツイベントが開催されなかったり、延期になったりしたためだと推察される。
5. 「職場で実施している運動・スポーツ」について、「体操・ストレッチ」16.9%、「階段利用促進運動」14.0%となっており、職場内で体を動かしていることがうかがえる。
6. 運動・スポーツ実施の「促進要因」と「阻害要因」について、一昨年度、昨年度と同様に「仕事」であった。促進要因の新たな項目「テレワークの勤務スタイルが続けば」は12.2%、阻害要因の新たな項目「感染症のリスクがあるから」は15.7%であった。
7. 「運動・スポーツの大切さ」、「生活満足度」について、一昨年度・昨年度と比べて大きな変化はない。
8. 「新型コロナウイルス流行下での健康の変化」について、「体重が増えた」（34.7%）、「ストレスが増えた」（32.1%）というネガティブな変化が上位を占めた。その一方で「健康意識が高まった」（22.2%）、「適度な運動を心がけるようになった」（16.5%）といったポジティブな変化も見受けられた。

以上

スポーツ実施率・アクティブライフに関する実態調査 2020
結果概要（速報版）

神戸商工会議所

■調査概要

- 目的：神戸市内事業所における経営者、経営幹部、従業員の「スポーツ実施率向上」のための基礎資料とする。
- 期間：2020年10月26日（月）～11月13日（金）
- 対象：神戸市内の事業所に勤務する経営者、経営幹部、従業員等
- 回答人数：68社 1,720人 ※ 2018年度 80社 2,365人、2019年度 70社 1,875人
- 回答者属性：男性：66.2%、女性 33.8%
経営者 0.9%、経営幹部 2.4%、管理職 24.3%、一般社員 62.7%、その他 9.7%
- 方法：WEBによるアンケート調査
- 調査リーダー：伊藤克広 兵庫県立大学 国際商経学部 教授
（神戸商工会議所 神戸スポーツ産業懇話会 世話人）

■調査結果概要

1 健康・体力について

健康・体力については、昨年度とほぼ同様の調査結果となり、「健康である」とした人が約8割、「体力に自信がある」人が約5割、「運動不足を感じている」人が約8割となった。

1. 健康

「健康である」とした人は 86.4% で、「健康でない」とした人は 12.8% となった。

2. 体力

「体力に自信がある」とした人は 54.1% で、「体力に不安がある」とした人は 43.9% となった。

3. 運動不足

「大いに感じる」「ある程度感じる」とした人は 78.3% で、「あまり感じない」「ほとんど感じない」とした人は 21.5% となった。

2 運動・スポーツの実施状況について

週1日以上スポーツ実施率は、昨年度の44.6%から49.8%と5.2ポイント上昇、1週間のスポーツ実施時間は「150分以上」が昨年度の21.9%から23.6%へ1.7ポイント上昇した。この1週間については、何らかの運動・スポーツを実施している人は72.5%から75.2%へ2.7ポイント上昇した。運動・スポーツの実施場所は「道路」32.5%（2019年度26.4%）、「自

宅・自宅敷地内」28.3%（2019年度19.3%）となっており、昨年度よりそれぞれ6.1ポイント、9ポイント増加している。

スポーツを実施している理由は、約半数の人が「健康のため」「楽しみ・気晴らしのため」に実施しており、スポーツを実施する上での促進要因、阻害要因ともに「仕事」が約半数を占め、昨年度の結果と大きな変化はなかった。

「新型コロナウイルス流行下における健康の変化」について、「体重が増加した」が34.7%と最も多く、「ストレスが増えた」（32.1%）、「特に変化していない」（29.5%）、「健康意識が高まった」（22.2%）、「適度な運動を心がけるようになった」（16.5%）となっている。

1. この1年間のスポーツ実施率

週1日以上のスポーツ実施率は、**49.8%**となった。

※2019年度調査結果 44.6%

<参考>スポーツ庁（令和元年度全国調査）53.5%

【スポーツ実施率】

成人の週1日以上スポーツを実施する割合。スポーツ庁は、第二期スポーツ基本計画において、スポーツ実施率を40.4%（2015年）から65%（2021年）に引き上げることを目標にしている。 *成人…20歳以上

2. この1週間のスポーツ実施時間

1週間の運動・スポーツ実施時間は、「150分以上」が**23.6%**と最も多く、次いで「60分～99分」14.4%、「30分～59分」12.8%の順となった。一方で、「運動やスポーツはしなかった」は23.7%であった。この1週間に限っては、75.1%の人が何らかの運動・スポーツを実施している。

3. 実施理由

「健康のため」が**49.8%**と最も多く、以下「楽しみ・気晴らしのため」が48.2%、「体力維持・増進のため」40.2%、「運動不足を感じるため」34.7%の順となった。

4. 実施種目

「ウォーキング」が**50.3%**と最も多く、次いで「トレーニング」27.8%、「ランニング（ジョギング）・マラソン・駅伝」25.3%、「体操」21.0%、「ゴルフ（コース）」16.7%の順となった。

また、職場での運動・スポーツでは、「体操・ストレッチ」**16.9%**、「階段利用促進運動」14.0%、「ウォーキング」11.5%の順となった。

5. 今後、新たに始めてみたい種目

「トレーニング」が**20.2%**と最も多く、次いで「登山・ハイキング・オリエンテーリング」15.2%、「ウォーキング」14.8%、「エアロビクス・ヨガ」12.7%、「ランニング（ジョギング）・マラソン・駅伝」11.1%の順となった。

6. 実施する上での促進要因と阻害要因

促進要因では、「仕事にゆとりができれば」が 48.5%と最も多く、次いで「お金に余裕ができれば」31.1%、「身近に施設や場所ができれば」26.4%の順となった。

阻害要因としては、「仕事が忙しいから」が 42.4%と最も多く、「仕事で体が疲れているから」25.8%、「面倒くさいから」23.5%の順となった。

7. 「みる」「ささえる」スポーツ

この1年間に直接現地でスポーツ観戦を行った人は39.5%であり、「プロ野球」が 14.4%と最も多く、次いで「Jリーグ・なでしこリーグ」11.6%、「ラグビー」9.1%の順となった。テレビやインターネットでの観戦した人は、「プロ野球」が60.5%と最も多く、次いで「高校野球」36.5%の順となった。

また、この1年間に運動・スポーツに関するボランティア活動を行った人は8.4%であり、そのうち、「大会・イベントの運営や世話」が 43.1%と最も多く、次いで「運動やスポーツの指導」36.1%、「スポーツクラブ・団体の運営や世話」32.6%の順となった。

8. スポーツの大切さ

運動・スポーツの大切さについては、76.9%の人が大切であるとしている（「大切である」41.3%+「まあ大切である」35.6%）。

9. 新型コロナウイルス流行下における健康の変化

「体重が増加した」が 34.7%と最も多く、次いで「ストレスが増えた」（32.1%）、「特に変化していない」（29.5%）、「健康意識が高まった」（22.2%）、「適度な運動を心がけるようになった」（16.5%）の順となった。

3. ゴールデン・スポーツイヤーズの関心度について

東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの関心度は、65.4%と昨年度に比べ 6.9 ポイント減少している。ワールドマスターズゲームズ 2021 関西は、19.1%と昨年度の 17.3%よりも 1.8 ポイント上昇したものの、関心度はまだ低い。神戸 2021 世界パラ陸上競技世界選手権大会は、25.0%と昨年度の 24.3%より 0.7 ポイント増加したものの、関心度はまだ低い。

1. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック

「関心がある」とした人は 65.4%、「関心がない」は 34.2%となった。

2. ワールドマスターズゲームズ 2021 関西

「関心がある」とした人は 19.1%、「関心がない」は 65.3%となった。

3. 神戸 2022 世界パラ陸上競技選手権大会

「関心がある」とした人は 25.0%、「関心がない」は 67.1%となった。

以上

スポーツ実施率・アクティブライフに関する実態調査 2020 結果（速報版）

神戸商工会議所

1. 調査概要

調査目的：神戸市内事業所における経営者、経営幹部、従業員の「スポーツ実施率向上」のための基礎資料とする。

調査期間：2020年10月26日（月）～11月13日（金）

対 象：神戸市内の事業所に勤務する経営者、経営幹部、従業員等

回答人数：1,720人（68社）

方 法：WEBによるアンケート調査（株式会社マクロミルの Questant を利用）

調査リーダー：伊藤克広 兵庫県立大学国際商経学部 教授（神戸商工会議所 神戸スポーツ産業懇話会 世話人）

2. 回答者属性

表 I は回答者属性を示している。性別について、「男性」66.2%（n=1,139）、「女性」33.8%（n=581）であった。年代について、「50代」が28.5%（n=491）と最も多く、以下、「40代」25.2%（n=434）、「30代」22.1%（n=380）の順となっている。職位は、「一般社員」が62.7%（n=1,079）と最も多く、次いで「管理職」24.3%（n=418）となっている。婚姻状況は、「既婚」が64.3%（n=1,106）、「独身」が35.7%（n=614）であった。

表 I. 回答者属性

		N	%
性別	男性	1,139	66.2
	女性	581	33.8
年齢	～19歳	8	0.5
	20～24歳	85	4.9
	25～29歳	176	10.2
	30～34歳	155	9.0
	35～39歳	225	13.1
	40～44歳	175	10.2
	45～49歳	259	15.1
	50～54歳	270	15.7
	55～59歳	221	12.8
	60～64歳	119	6.9
	65歳～	27	1.6
年代	10代	8	0.5
	20代	261	15.2
	30代	380	22.1
	40代	434	25.2
	50代	491	28.5
	60代以上	146	8.5
職位	経営者	15	0.9
	経営幹部	41	2.4
	管理職	418	24.3
	一般社員	1,079	62.7
	その他	167	9.7
婚姻状況	独身	614	35.7
	既婚	1,106	64.3
全体		1,720	100.0

3. 調査結果

(1) 健康

図 1 は、健康状態についてたずねた結果である。「どちらかといえば、健康である」が 55.0% (n=946) と最も高い割合であった。以下、「健康である」31.4% (n=540)、「どちらかといえば、健康でない」10.2% (n=175) となっている。

健康であるとする割合が 86.4% (n=1,486) (「健康である」31.4% + 「どちらかといえば健康である」55.0%) と 8 割を超える人が健康であると回答している。

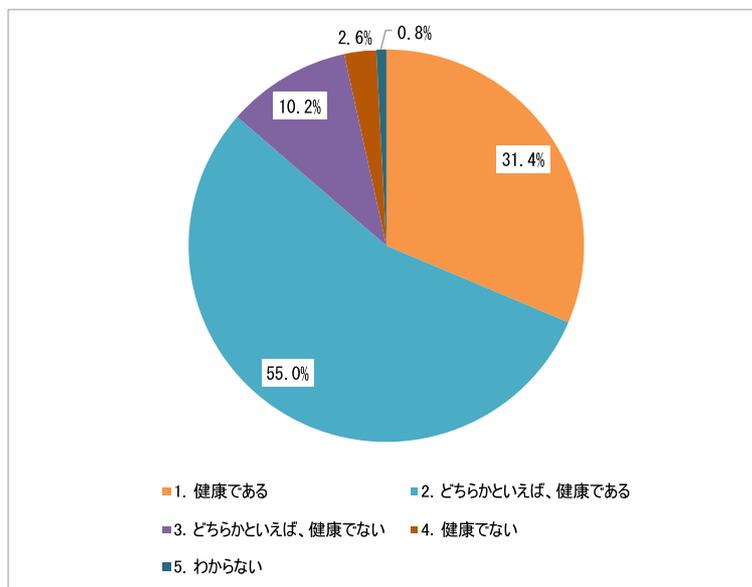


図 1. 健康について

(2) 体力

図 2 は、現在の体力についてたずねた結果である。「どちらかといえば、体力に自信がある」が 45.8% (n=788) で最も高い割合を示した。以下、「どちらかといえば、体力に不安がある」34.6% (n=595)、「体力に不安がある」9.3% (n=160)、「体力に自信がある」8.3% (n=143) となっている。

体力に自信があるとする割合が 54.1% (n=931) (「体力に自信がある」8.3% + 「どちらかといえば、体力に自信がある」45.8%) と半数を超える人が体力に自信があると回答している。

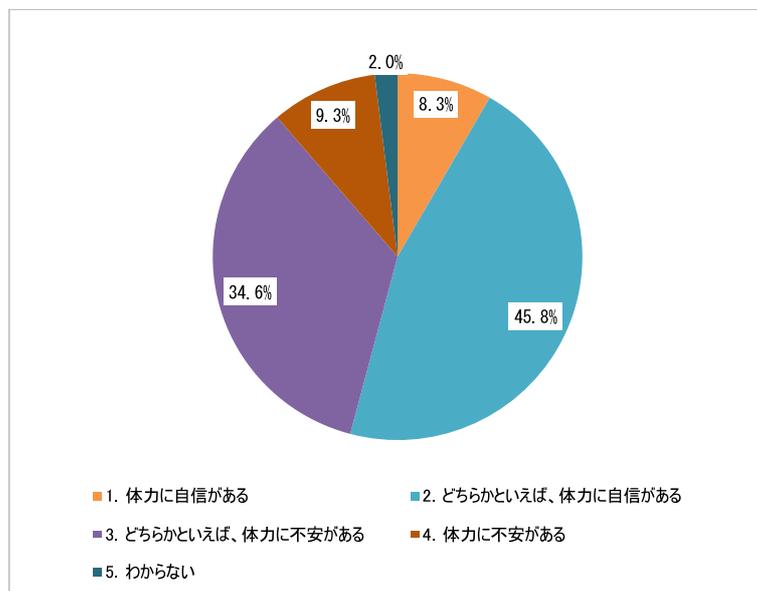


図 2. 体力について

(3) 運動不足

図 3 は、普段、運動不足を感じるかをたずねた結果である。最も高い割合を示したのは「ある程度感じる」の 42.7% (n=734) であった。以下、「大いに感じる」35.6% (n=612)、「あまり感じない」15.2% (n=262)、「ほとんど（全く）感じない」6.3% (n=109) の順となっている。

運動不足を感じるとする割合が 78.3% (n=1,346) (「大いに感じる」35.6% + 「ある程度感じる」42.7%) と約 8 割の人が運動不足を感じるという回答している。

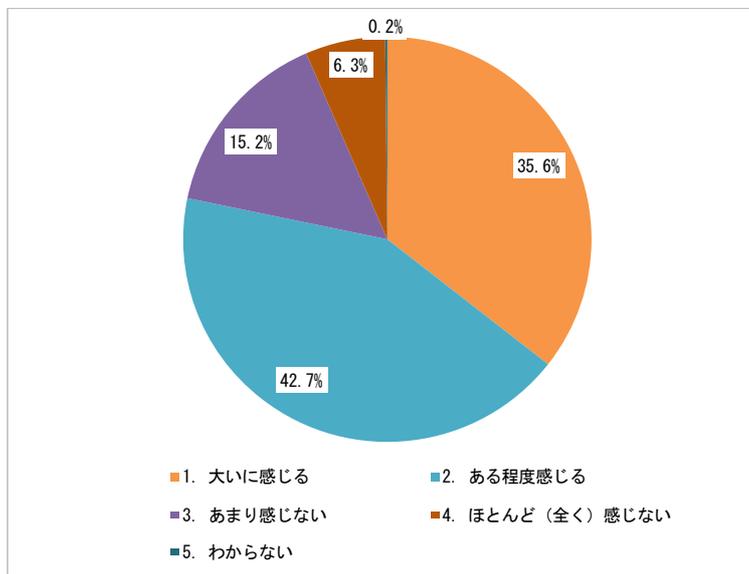


図 3. 運動不足について

(4) 運動・スポーツ実施日数

図 4 は、この 1 年間の運動・スポーツ実施日数についてたずねた結果である。「週に 1 日以上」が 21.4% (n=369) で最も多く、以下「月に 1~3 日」が 20.6% (n=355)、「週に 2 日以上」12.3% (n=211) の順となっている。

週 1 日以上のスポーツ実施率は、49.8% (n=857) となっている。

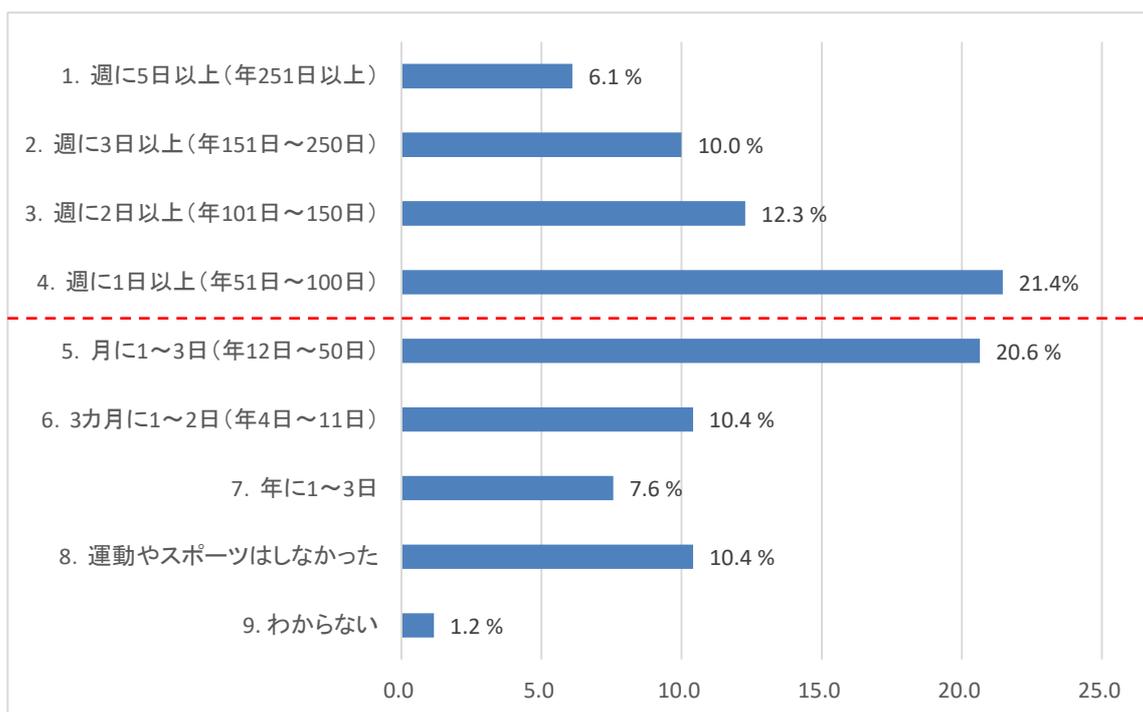


図 4. この 1 年間の運動・スポーツ実施日数

(5) 1 週間の運動・スポーツ実施時間

図 5 は、この 1 週間の運動・スポーツ実施時間をたずねた結果である。スポーツを実施した者のうち最も高い割合を示したのは「150 分以上」の 23.6% (n=406) であった。以下、「60 分～99 分」14.4% (n=247)、「30 分～59 分」12.8% (n=221)、「100 分～149 分」と「30 分未満」が 12.2% (n=209) の順となっている。

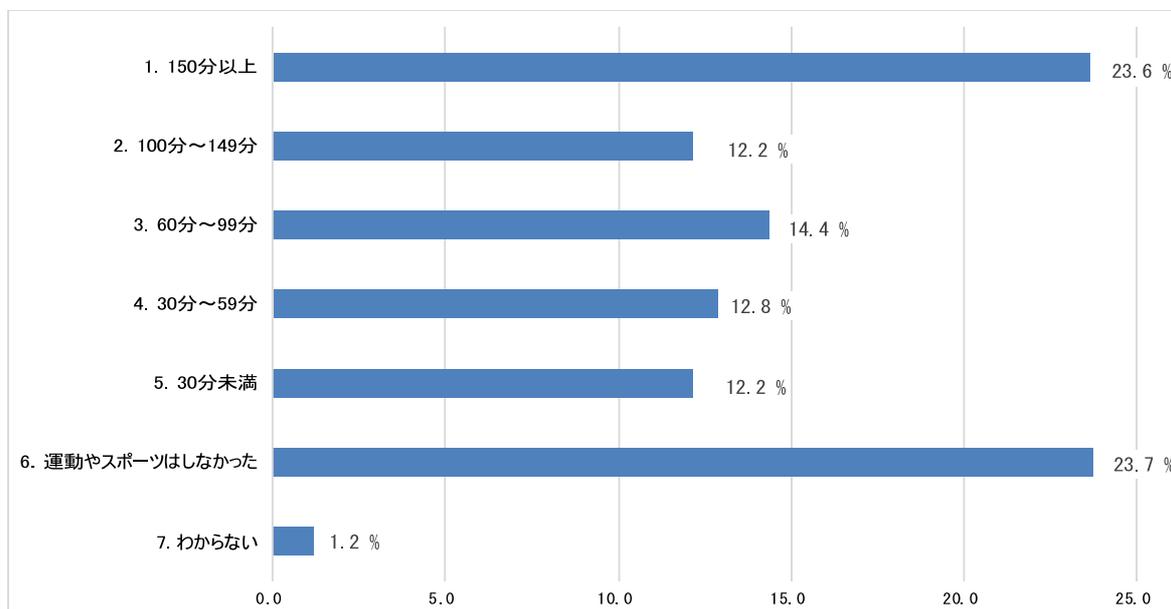


図 5. この 1 週間の運動・スポーツ実施時間

(6) この 1 年間の運動・スポーツ実施理由

図 6 は、この 1 年間に運動・スポーツを実施した理由をたずねた結果である（複数回答）。第 1 位が「健康のため」49.8% (n=857)、第 2 位が「楽しみ・気晴らしのため」48.2% (n=829)、第 3 位が「体力維持・増進のため」40.2% (n=692) となっている。

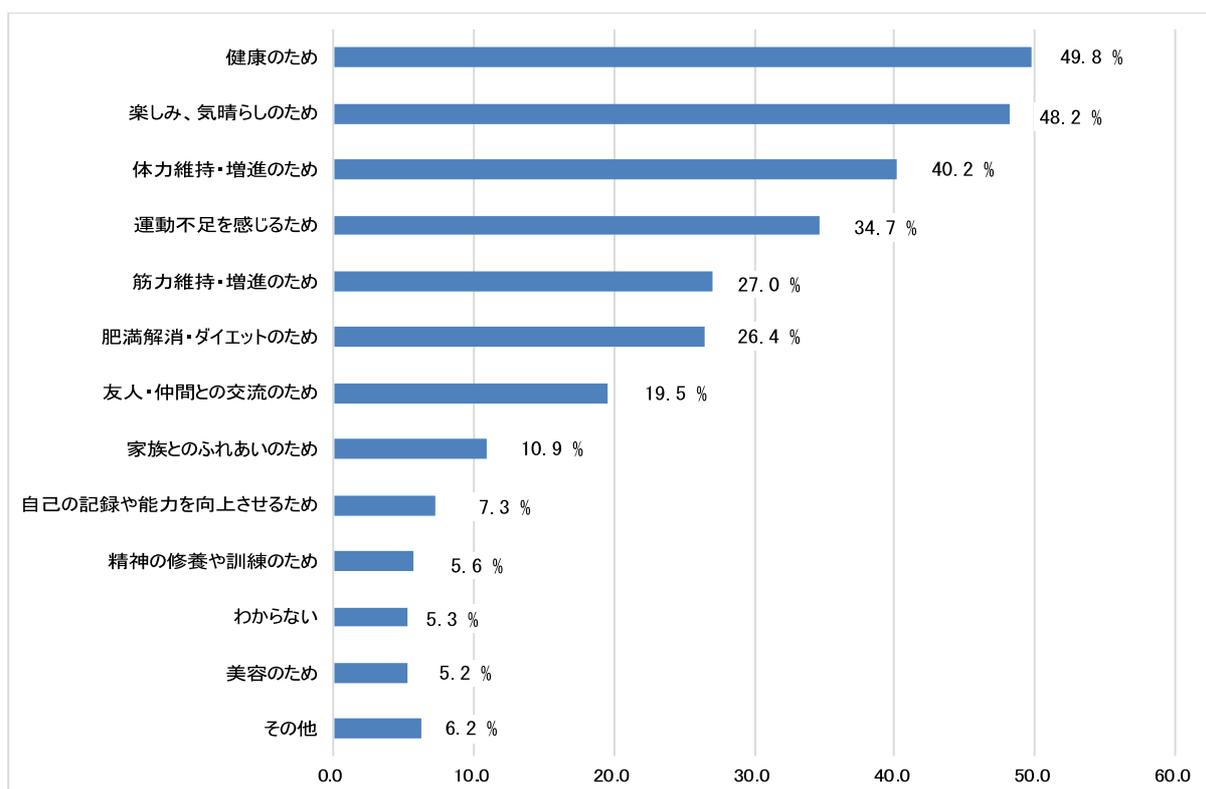


図 6. この 1 年間の運動・スポーツ実施理由

(7) この1年間の運動・スポーツ実施場所

図7は、この1年間にどこで運動・スポーツを実施したかをたずねた結果である（複数回答）。「道路」が32.5%（n=559）で最も多く、以下、「自宅・自宅敷地内」28.3%（n=486）、「公園」26.8%（n=461）、「公共体育・スポーツ施設」が22.8%（n=393）、「山岳・森林・海・湖・川等の自然環境」20.3%（n=349）の順となっている。

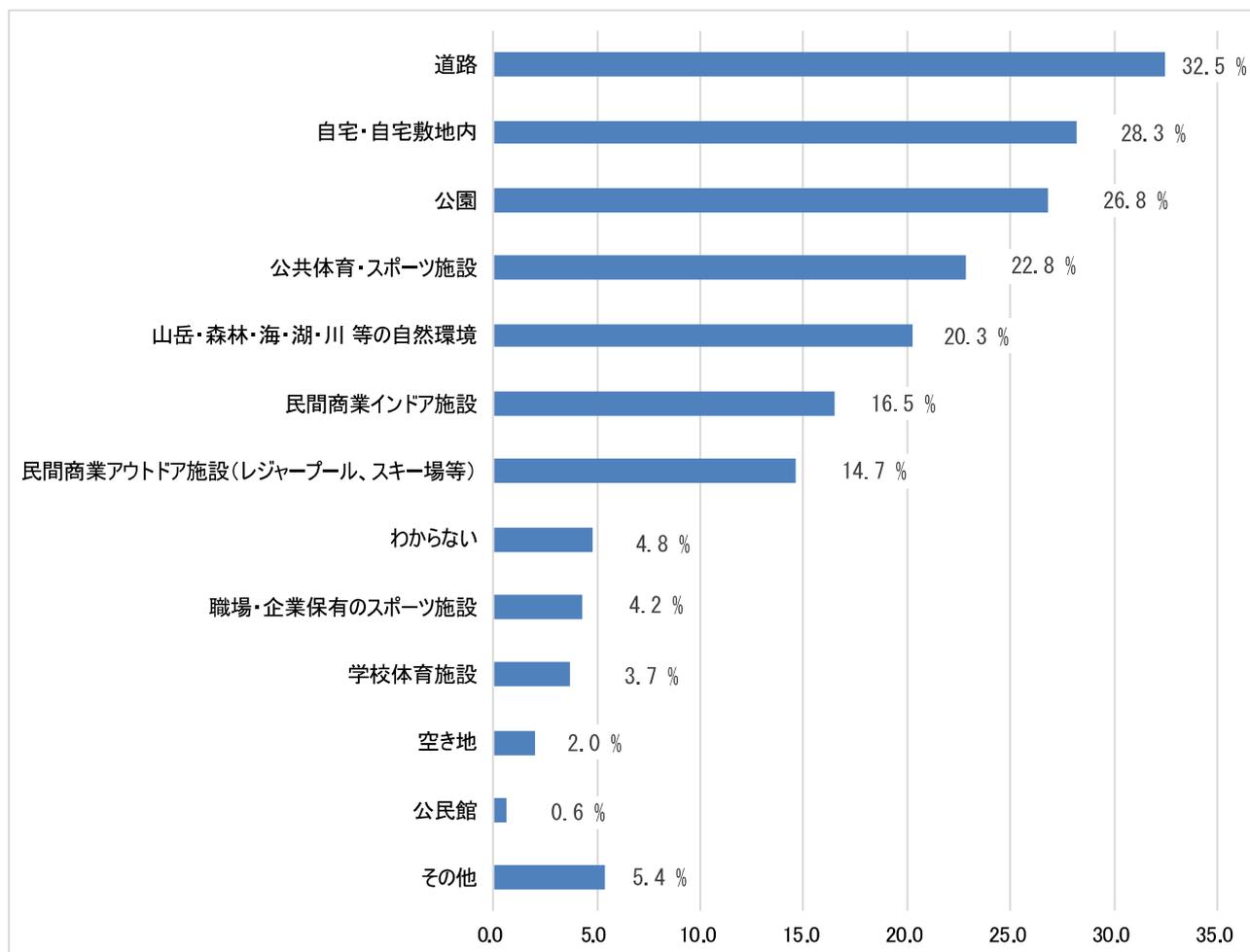


図7. この1年間の運動・スポーツ実施場所

(8) この 1 年間に実施した運動・スポーツ

図 8 は、この 1 年間に実施した運動・スポーツの上位 20 種目である（複数回答）。第 1 位「ウォーキング」50.3%（n=866）、第 2 位「トレーニング（筋力トレーニング、重量挙げ、ランニングマシン）・室内運動器具を使ってする運動等」27.8%（n=479）、第 3 位「ランニング（ジョギング）・マラソン・駅伝」25.3%（n=436）、第 4 位「体操」21.0%（n=362）、第 5 位「ゴルフ（コース）」16.7%（n=288）、となっている。

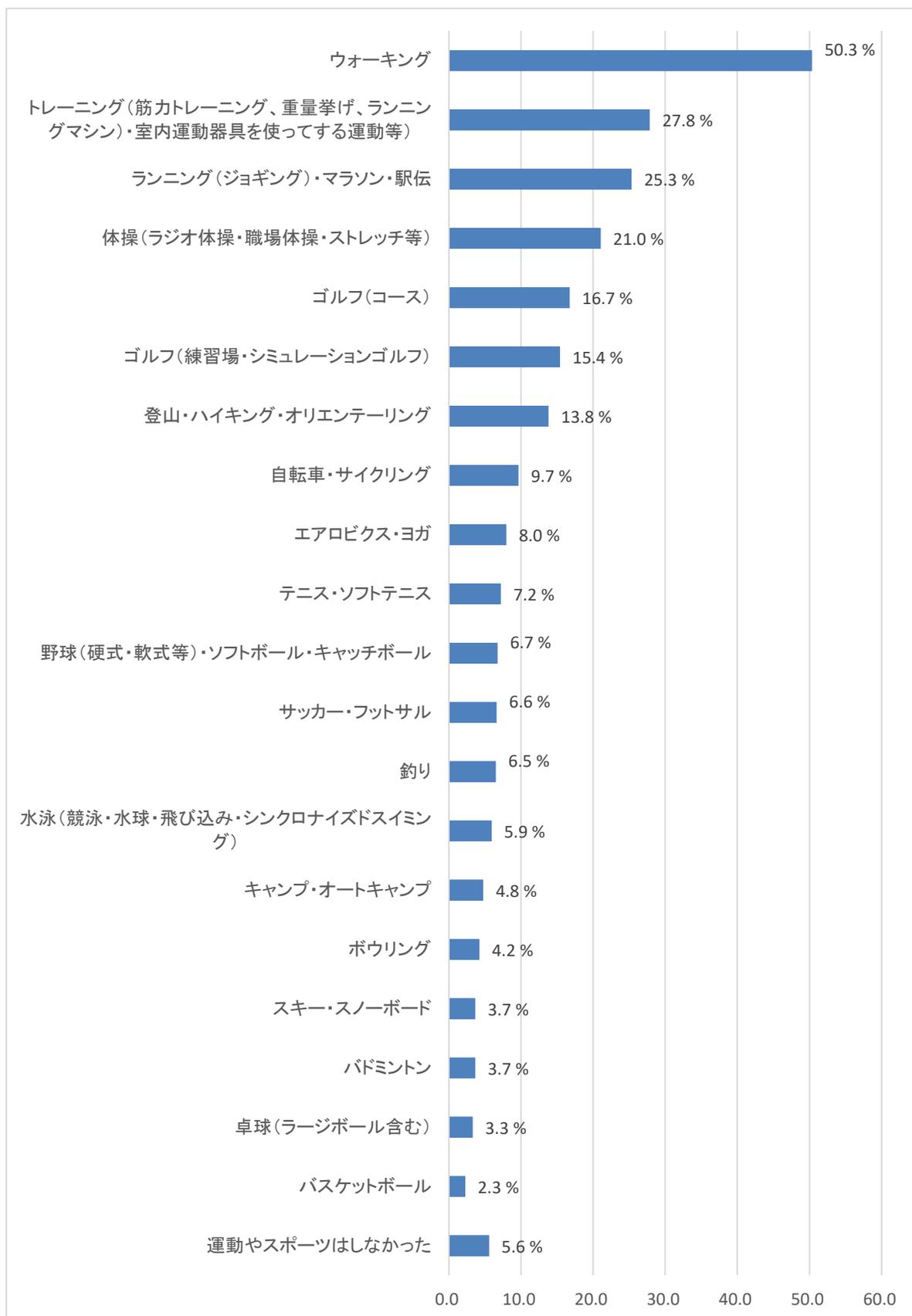


図 8. この 1 年間に実施した運動・スポーツ

(9) この1年間に直接現地で観戦したスポーツ

図9は、この1年間に直接現地で観戦したスポーツの上位20種目である（複数回答）。第1位「プロ野球」14.4%（n=248）、第2位「Jリーグ・なでしこリーグ」11.6%（n=199）、第3位「ラグビー」9.1%（n=157）、第4位「高校野球」3.6%（n=62）、第5位「少年野球、ソフトボールなど」3.0%（n=51）となっている。その一方で「観戦しなかった」が60.5%（n=1,041）となった。

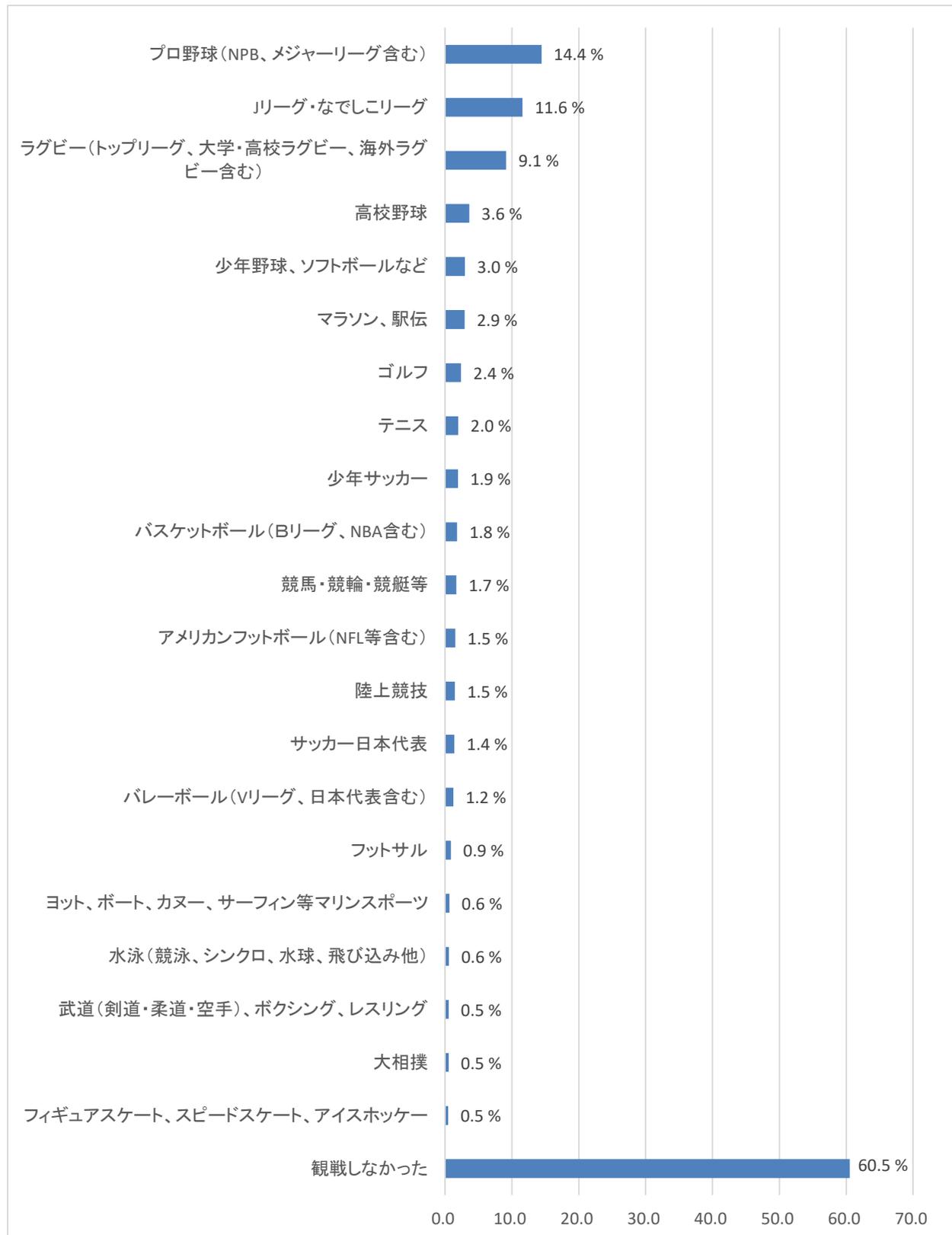


図9. この1年間に直接現地で観戦したスポーツ

(10) この1年間にテレビ・インターネット観戦したスポーツ

図 10 は、この1年間にテレビやインターネットで観戦したスポーツの上位 20 種目である（複数回答）。第 1 位「プロ野球」60.5%（n=1,040）、第 2 位「高校野球」36.5%（n=628）、第 3 位「サッカー日本代表」32.4%（n=557）、第 4 位「ラグビー」と「マラソン、駅伝」29.1%（n=501）、となっている。その一方で「観戦しなかった」が 16.0%となった。

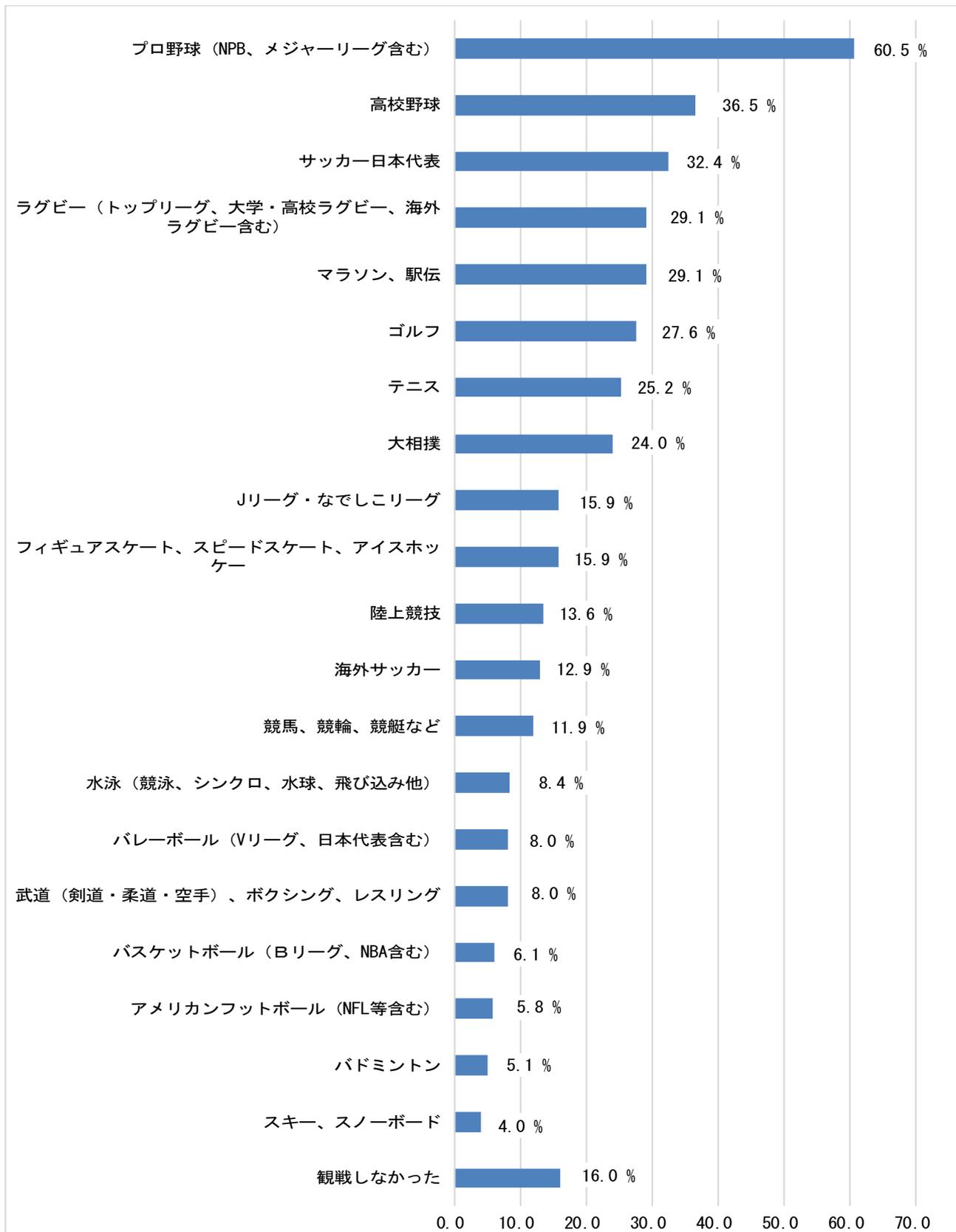


図 10. この1年間にテレビ・インターネット観戦したスポーツ

(11) スポーツクラブ・同好会加入状況

図 11 は、スポーツクラブや同好会への加入状況である（複数回答）。「加入していない」が 75.1%（n=1,292）で最も高い割合であった。第 2 位は「民間のスポーツクラブや同好会に加入している」10.3%（n=177）、第 3 位は「職場のクラブや同好会に加入している」9.4%（n=161）となっている。

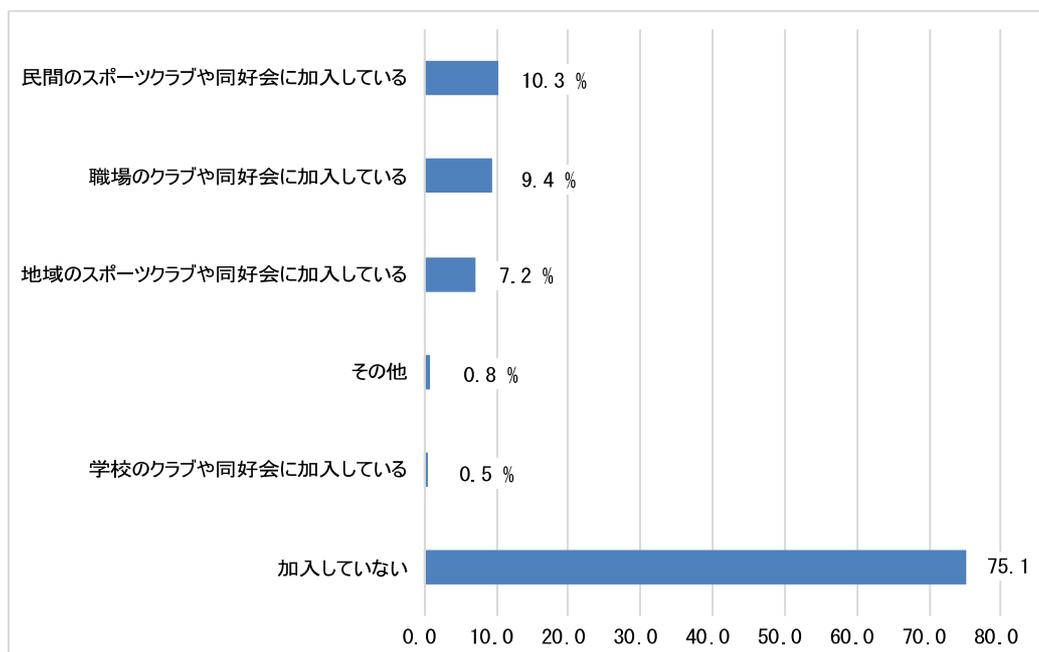


図 11. スポーツクラブ・同好会加入状況

(12) 運動・スポーツ実施時間帯

図 12 は、運動・スポーツを実施している時間帯についてたずねた結果である（複数回答）。最も高い割合を示したのは「休日・午前中（9:00～12:00）」の 33.8%（n=581）であった。第 2 位は「平日・夜間（18:00～21:00）」31.1%（n=535）、第 3 位は「休日・昼間（12:00～15:00）」30.8%（n=530）となっている。

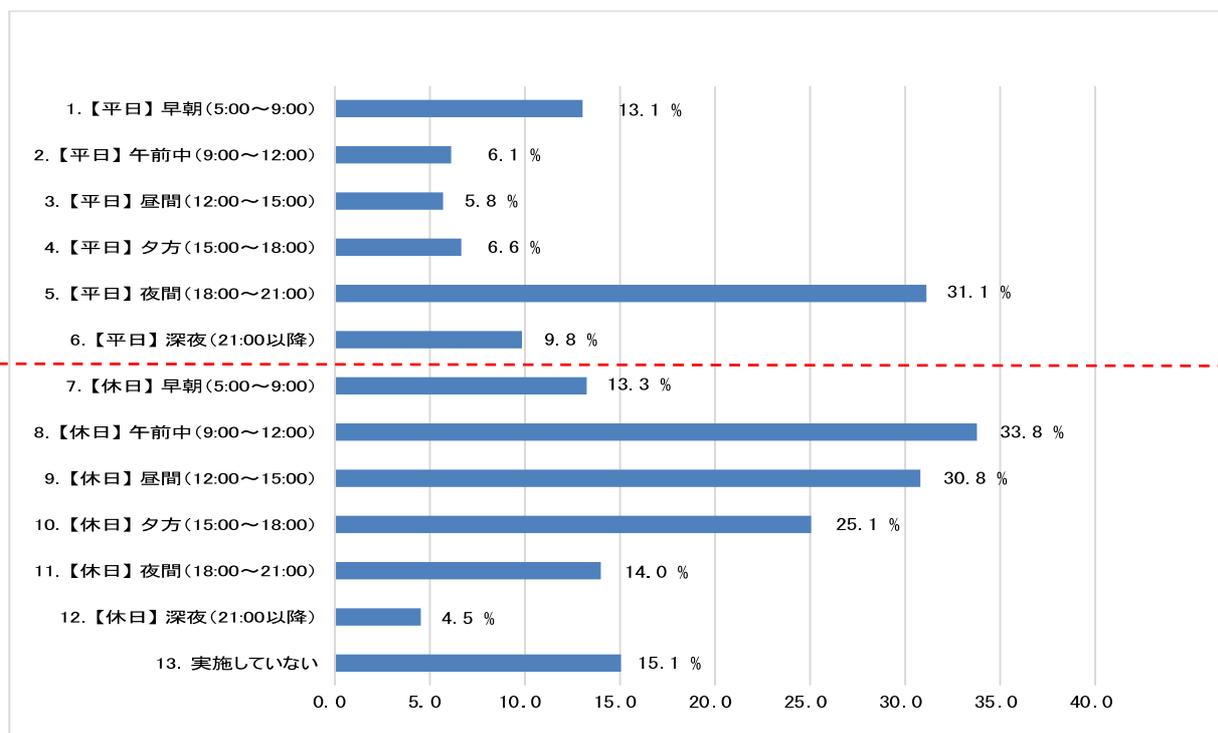


図 12. 運動・スポーツ実施時間帯

(13) 職場で実施している運動・スポーツ

図 13 は、職場において実施している運動・スポーツの内容についてたずねた結果である（複数回答）。最も高い割合を示したのは「実施していない」64.0%（n=1,100）であった。以下、「体操・ストレッチ」16.9%（n=291）、「階段利用促進運動」14.0%（n=241）、「ウォーキング」11.5%（n=198）の順となっている。

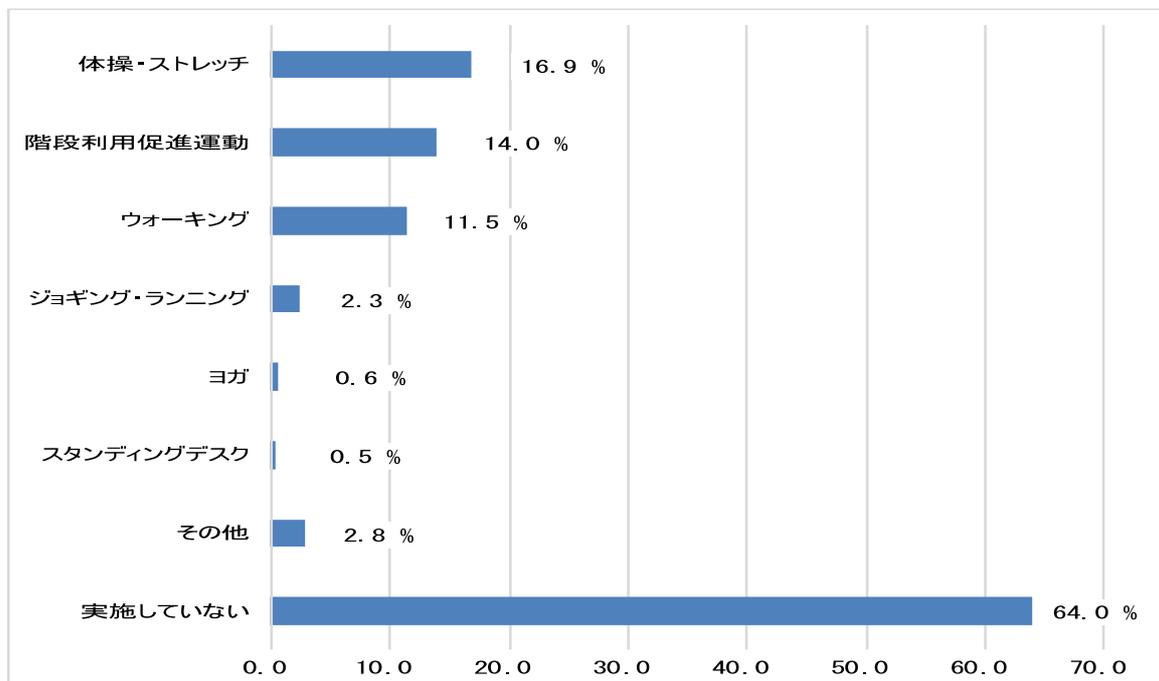


図 13. 職場で実施している運動・スポーツ

(14) 職場での運動・スポーツ実施時間帯

図 14 は、職場での運動・スポーツ実施時間帯についてたずねた結果である（複数回答）。「実施していない」が68.6%（n=1,180）で最も高い割合を示した。以下、「昼間（12:00～15:00）」14.2%（n=244）、「早朝（5:00～9:00）」11.2%（n=192）、「午前中（9:00～12:00）」10.3%（n=177）の順となっている。

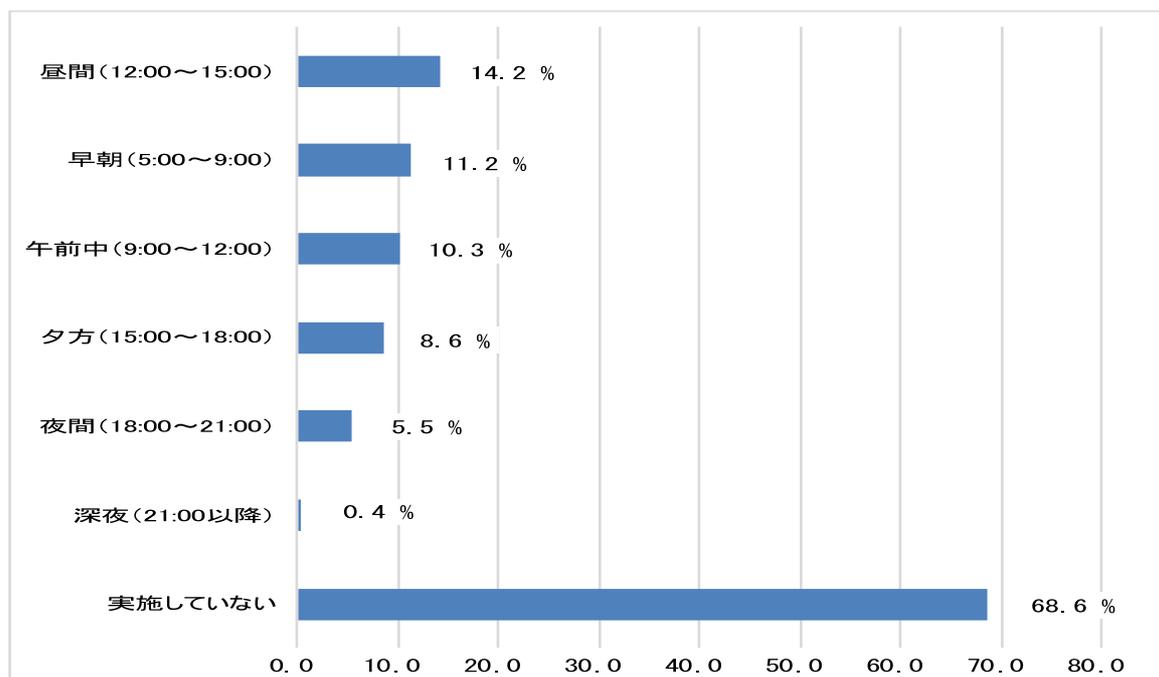


図 14. 職場での運動・スポーツ実施時間帯

(15) 現在の運動・スポーツ実施状況と今後の予定

図 15 は、現在の運動・スポーツ実施状況と今後の予定（運動・スポーツ行動変容）についてたずねた結果である。「現在、定期的（週 1 回以上）に運動やスポーツを実施しており、6 カ月以上継続している」が 39.0%（n=671）と最も高い割合を示した。以下、「現在、運動やスポーツをしているが、定期的ではない」25.9%（n=445）、「現在、運動やスポーツはしていないが、6 カ月以内に始めようと思っている」15.1%（n=259）の順となっている。

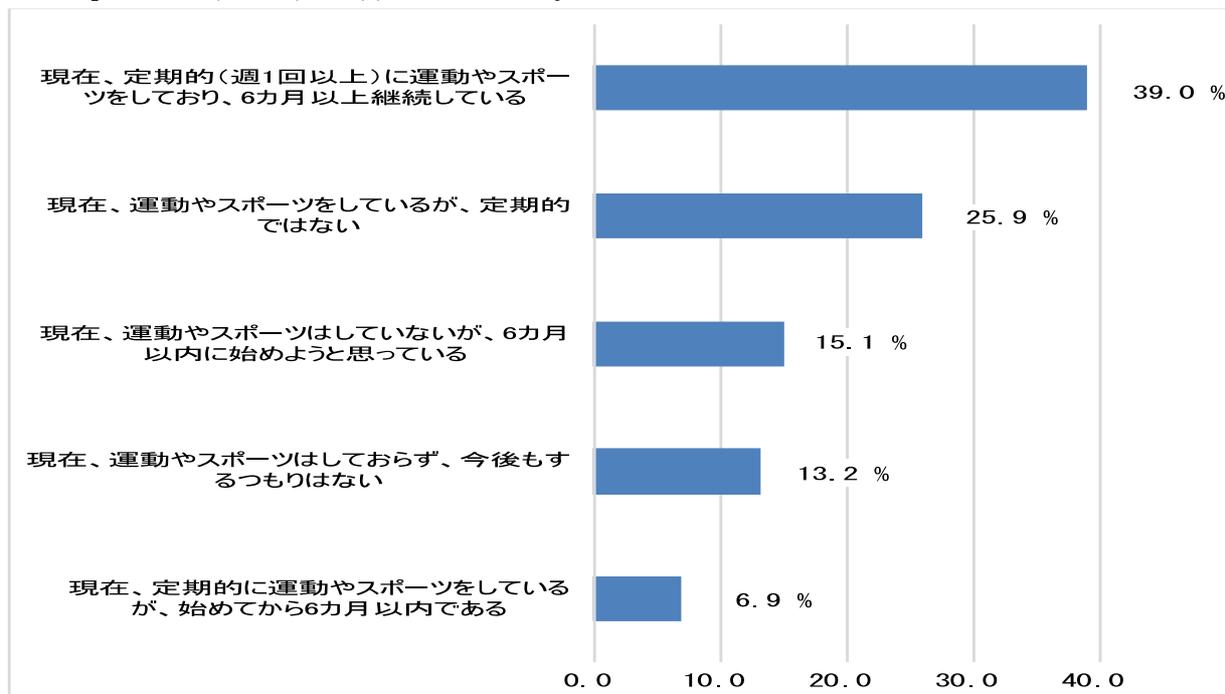


図 15. 現在の運動・スポーツ実施状況と今後の予定

(16) この1年間の運動・スポーツボランティア活動

図 16 は、この 1 年間に運動・スポーツに関するボランティア活動を行ったかをたずねた結果である。「行っていない」が 91.6%（n=1,576）で最も高い割合であった。以下、「イベントや大会で不定期に行った」が 4.8%（n=82）、「日常的・定期的に行った」が 3.6%（n=62）の順となっている。

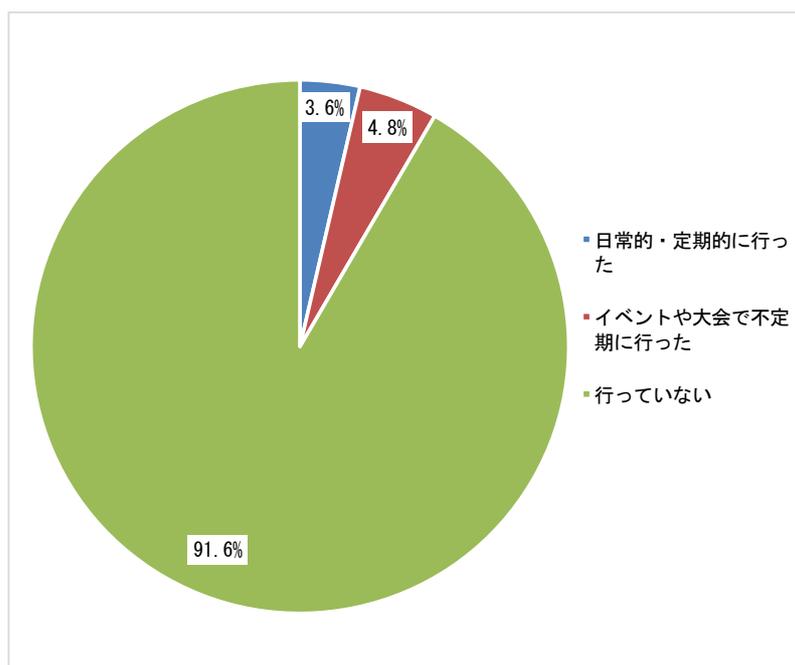


図 16. この1年間の運動・スポーツボランティア活動

(17) この1年間の運動・スポーツボランティア内容

図17は、「(16) 運動・スポーツボランティア活動」で「イベントや大会で不定期に行った」、「日常的・定期的に行った」と回答した人(n=144)にその活動内容をたずねた結果である(複数回答)。「大会・イベントの運営や世話」が43.1%(n=62)で最も高く、以下、「運動やスポーツの指導」36.1%(n=52)、「スポーツクラブ・団体の運営や世話」32.6%(n=47)の順となっている。

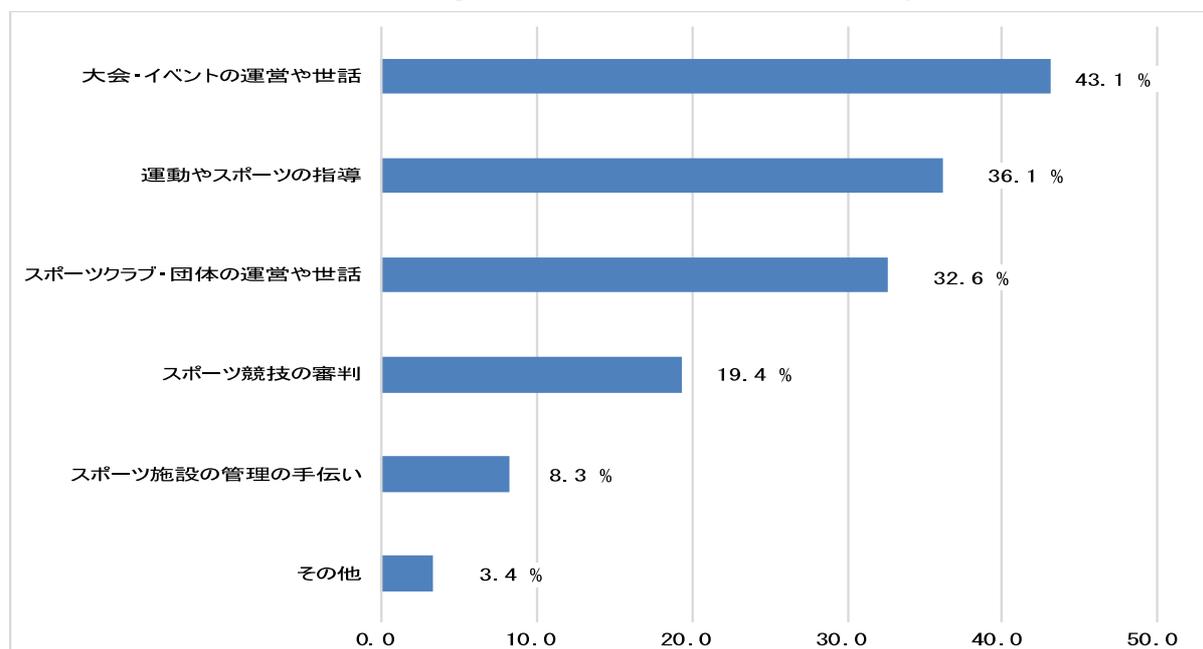


図17. この1年間の運動・スポーツボランティア内容

(18) 運動・スポーツ実施希望時間帯

図18は、今後、運動・スポーツをさらに実施する場合の希望時間帯についてたずねた結果である(複数回答)。「休日・午前中(9:00~12:00)」が41.3%(n=710)で最も高い割合であった。以下、「平日・夜間(18:00~21:00)」34.1%(n=586)、「休日・昼間(12:00~15:00)」26.3%(n=452)の順となっている。

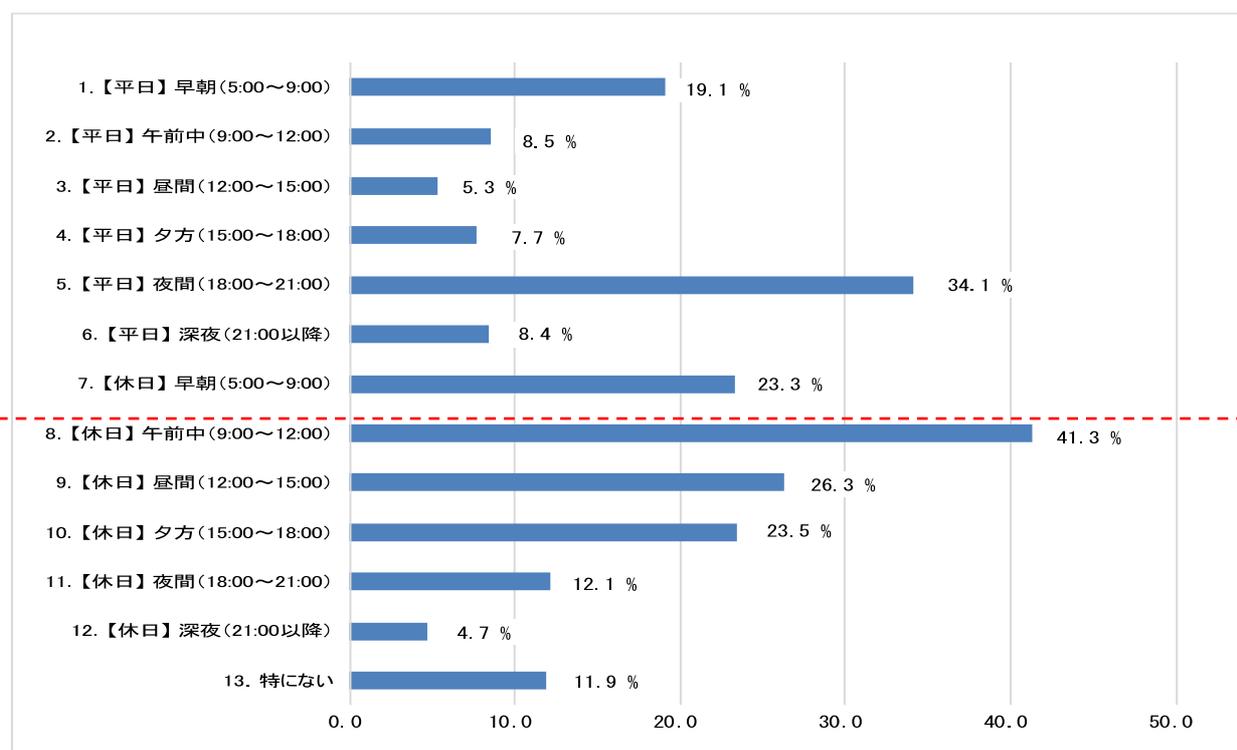


図18. 運動・スポーツ実施希望時間帯

(19) 運動・スポーツ実施の促進要因

図 19 は、運動・スポーツ実施の促進要因を示している（複数回答）。「仕事にゆとりができれば」が 48.5%（n=834）で最も高く、以下、「お金に余裕ができれば」31.1%（n=535）、「身近に施設や場所ができれば」26.4%（n=454）、「仲間ができれば」22.5%（n=387）、「家事にゆとりができれば」20.5%（n=353）の順となっている。

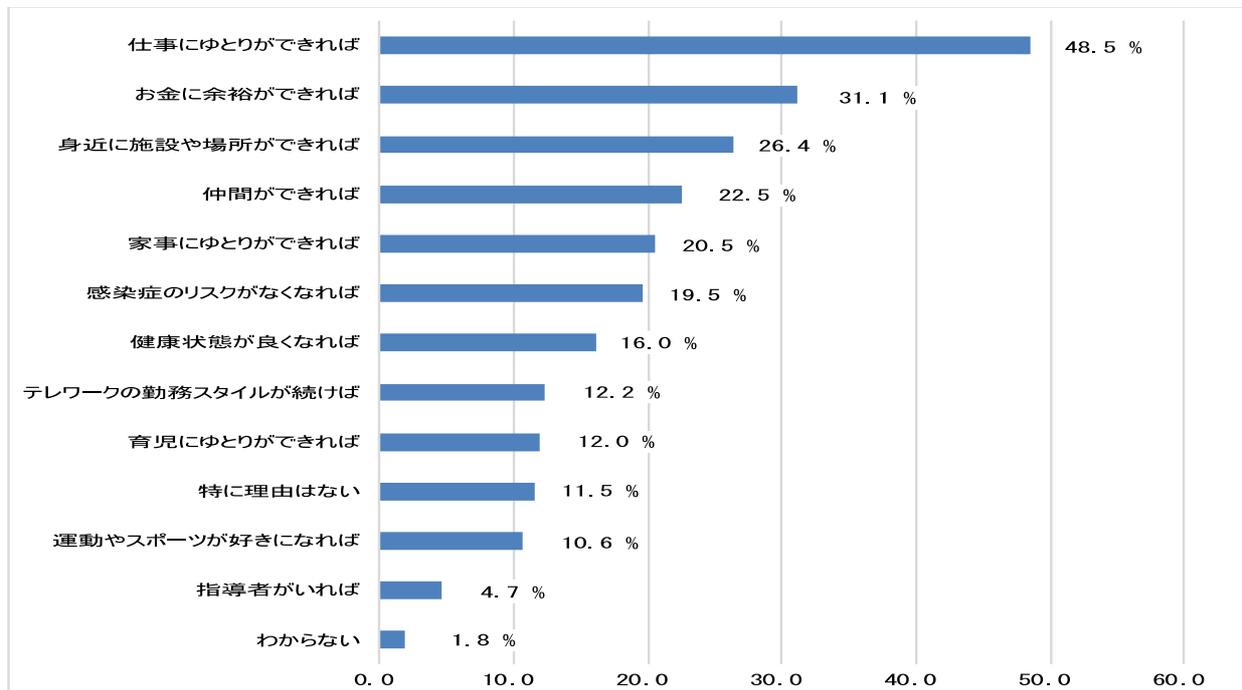


図 19. 運動・スポーツ実施の促進要因

(20) 運動・スポーツ実施の阻害要因

図 20 は、運動・スポーツ実施の阻害要因を示している（複数回答）。「仕事が忙しいから」が 42.4%（n=729）で最も高く、以下、「仕事で体が疲れているから」25.8%（n=443）、「面倒くさいから」23.5%（n=404）、「お金に余裕がないから」23.3%（n=401）、「家事が忙しいから」19.7%（n=339）の順となっている。

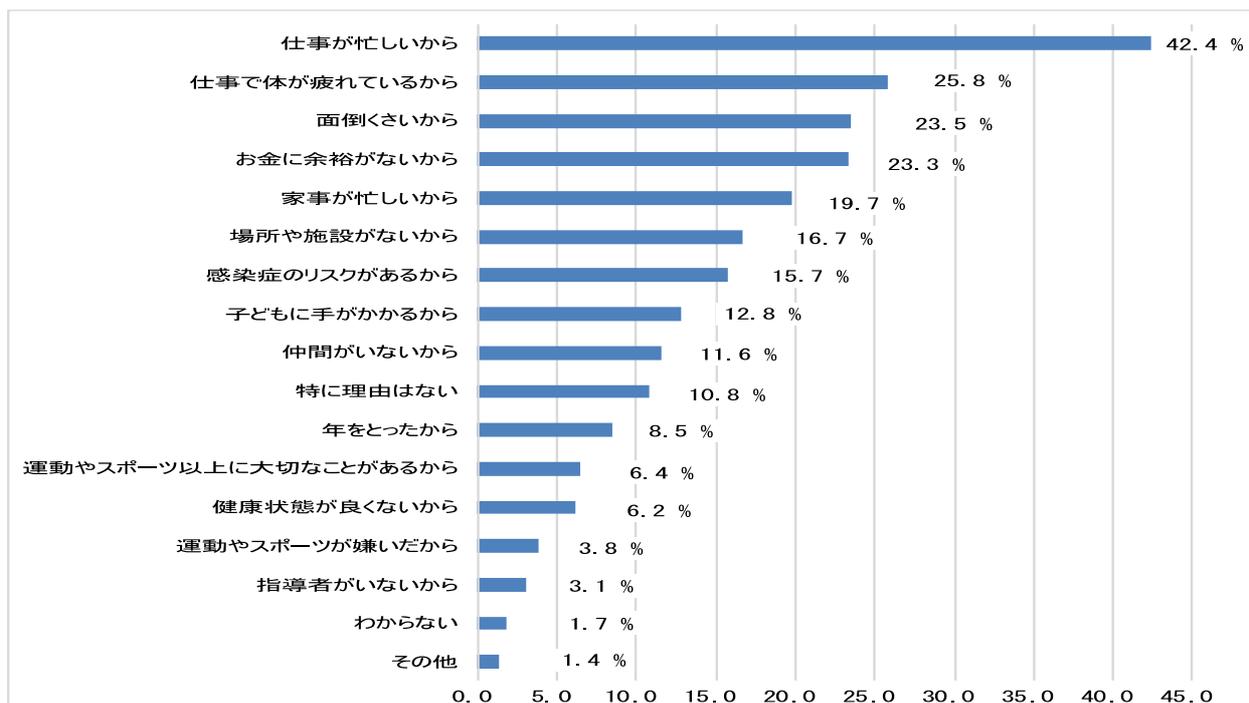


図 20. 運動・スポーツ実施の阻害要因

(21) 今後、新たに始めてみたい運動・スポーツ

図 21 は、今後、新たに始めてみたい運動・スポーツの上位 20 種目を示している（複数回答）。第 1 位「トレーニング」20.2%（n=347）、第 2 位「登山・ハイキング・オリエンテーリング」15.2%（n=262）、第 3 位「ウォーキング」14.8%（n=255）、第 4 位「エアロビクス・ヨガ」12.7%（n=218）、第 5 位「ランニング（ジョギング）・マラソン・駅伝」11.1%（n=191）となっている。

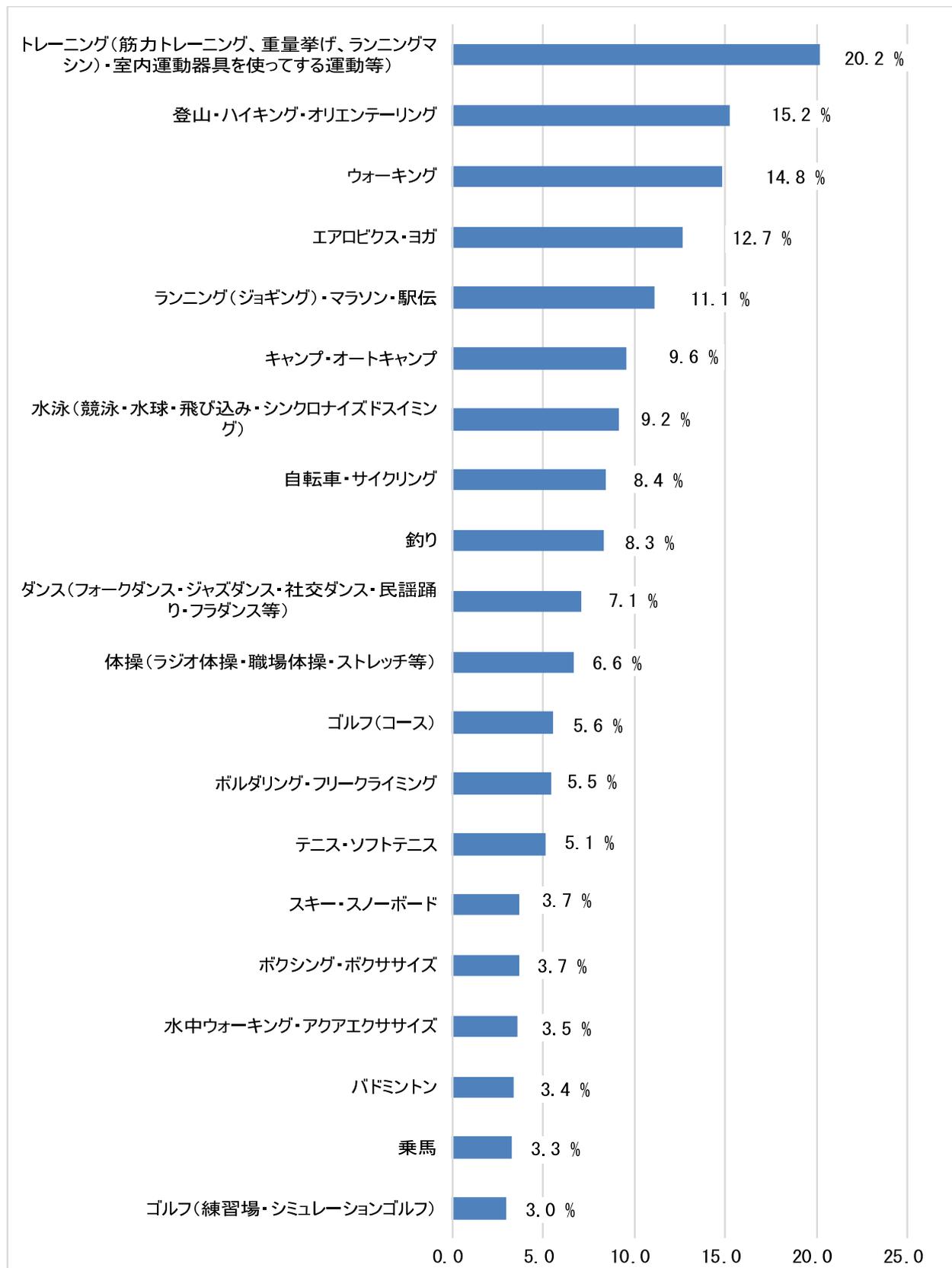


図 21. 今後、新たに始めてみたい運動・スポーツ

(22) 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに対する関心

図 22 は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックに対する関心をたずねた結果である。関心がある人は 65.4% (n=1,125) (「関心がある」28.6% (n=492) + 「まあ関心がある」36.8% (n=633)) となっている。

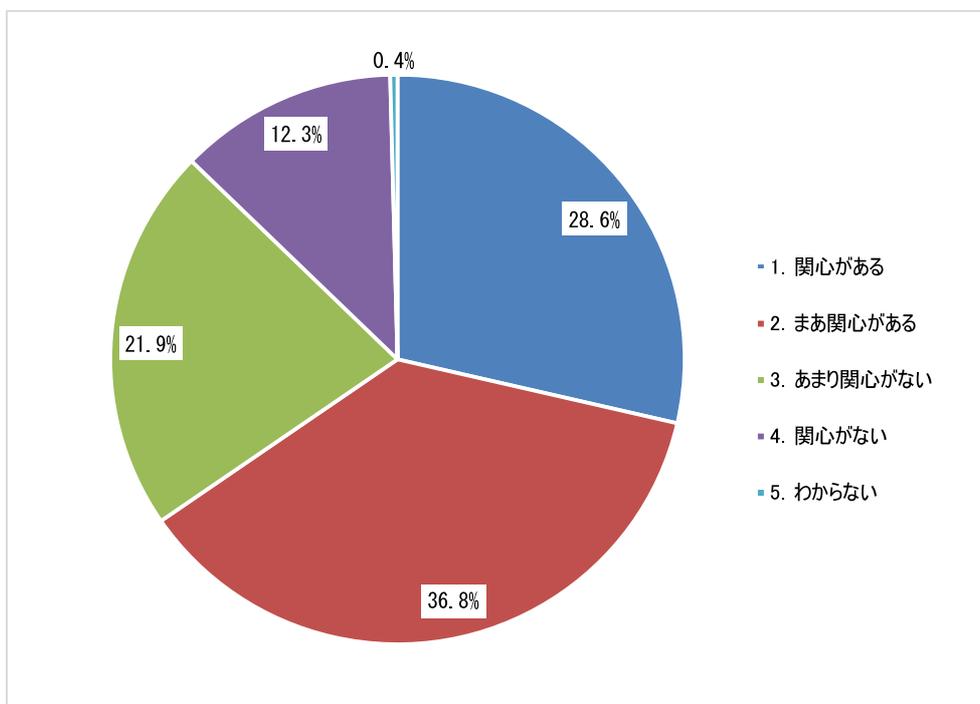


図 22. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに対する関心

(23) ワールドマスターズゲームズ 2021 関西に対する関心

図 23 は、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西に対する関心をたずねた結果である。関心がある人は 19.1% (n=328) (「関心がある」6.1% (n=105) + 「まあ関心がある」13.0% (n=223)) となっている。

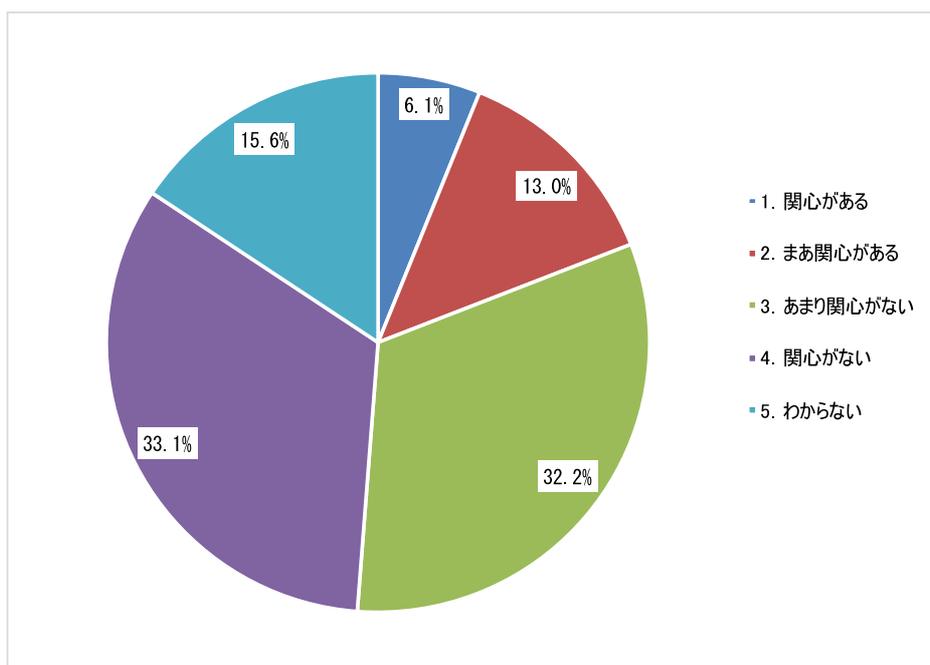


図 23. ワールドマスターズゲームズ 2021 関西に対する関心

(24) 神戸 2022 世界パラ陸上競技選手権大会に対する関心

図 24 は、神戸 2022 世界パラ陸上競技選手権大会に対する関心をたずねた結果である。関心がある人は 25.0% (n=429) (「関心がある」 5.3% (n=91) + 「まあ関心がある」 19.7% (n=338)) となっている。

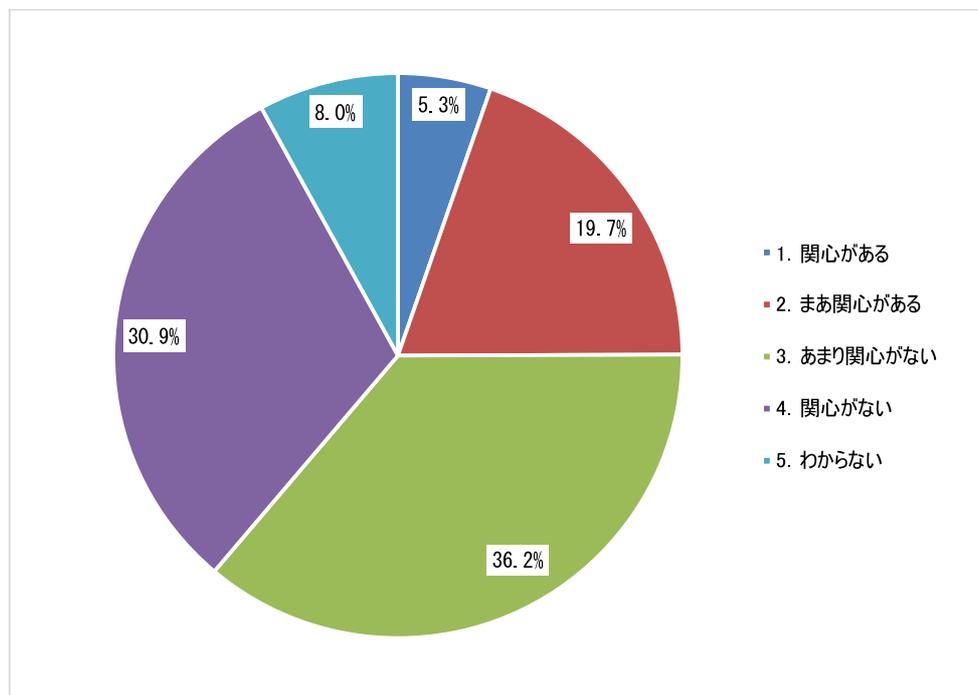


図 24. 神戸 2022 世界パラ陸上競技選手権大会に対する関心

(25) 障害者スポーツへの関わり

図 25 は、障害者スポーツへの関わりについてたずねた結果である（複数回答）。「テレビやラジオ、新聞などで、間接的に見たり、聞いたりしたことがある」 64.2% (n=1,104) が最も高い割合であった。以下、「見たり、聞いたりすることがあまりない」 31.5% (n=542)、「直接観戦した、または参加したことがある」 4.0% (n=69) の順となっている。

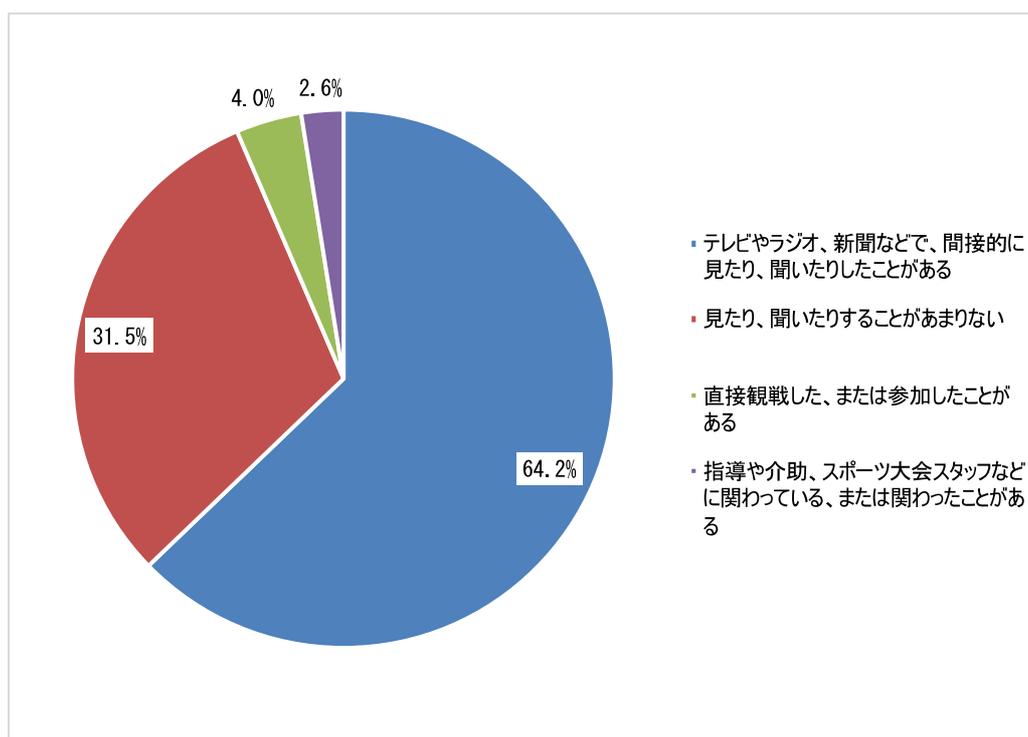


図 25. 障害者スポーツへの関わり

(26) 運動・スポーツの大切さ

図 26 は、自身にとっての運動・スポーツの大切さについてたずねた結果である。大切であるとしているのは 76.9% (n=1,323) (「大切である」41.3% (n=711) + 「まあ大切である」35.6% (n=612)) となっている。

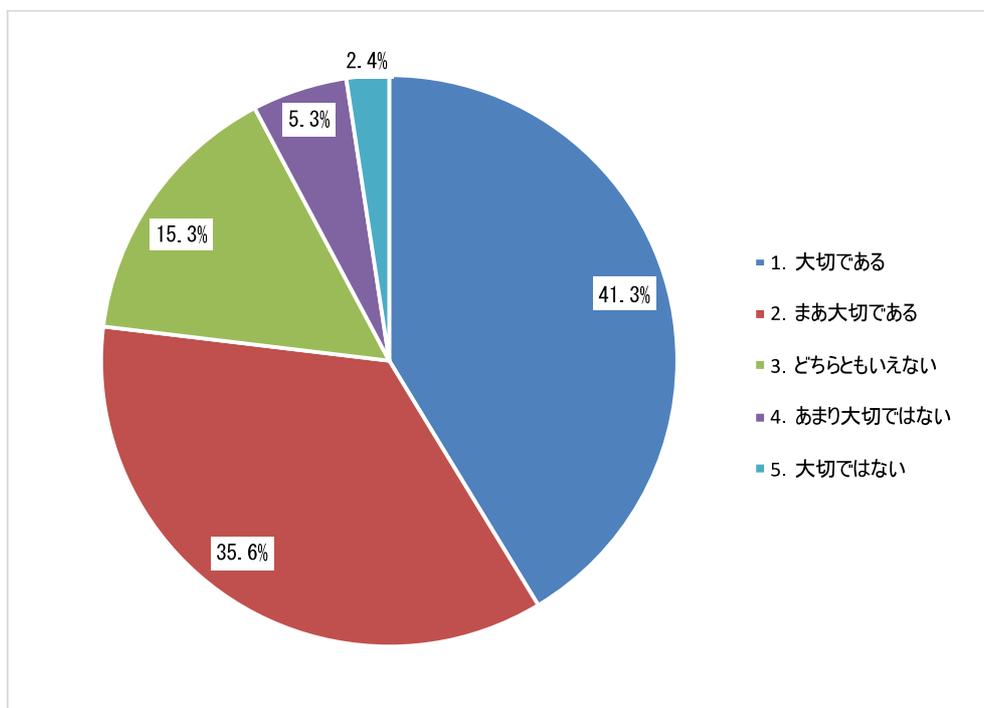


図 26. 運動・スポーツの大切さ

(27) 生活満足度

図 27 は、生活満足度についてたずねた結果である。満足しているのは 66.0% (n=1,134) (「満足している」11.2% (n=192) + 「まあ満足している」54.8% (n=942)) となっている。

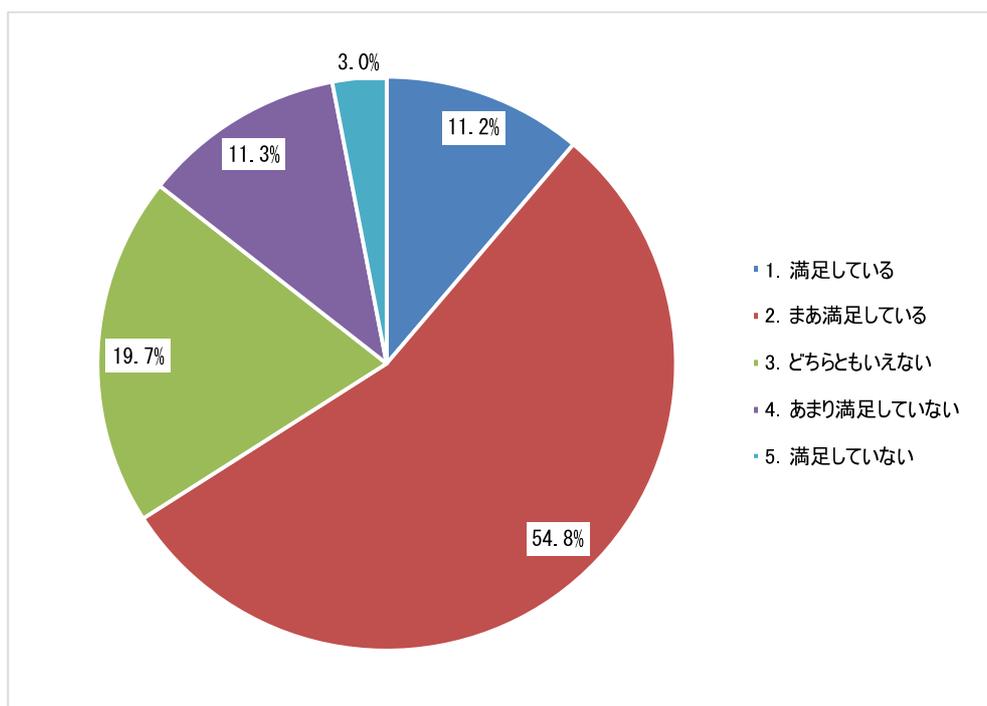


図 27. 生活満足度

(28) 新型コロナウイルス流行下での健康の変化

図 28 は、新型コロナウイルス流行下で健康がどのように変化したかたずねた結果である（複数回答）。最も高い割合を示したのは「体重が増加した」の 34.7%（n=596）であった。以下、「ストレスが増えた」32.1%（n=552）、「特に変化していない」29.5%（n=507）、「健康意識が高まった」22.2%（n=382）、「適度な運動を心がけるようになった」16.5%（n=283）、「食生活のバランスを考えるようになった」10.2%（n=176）となっている。

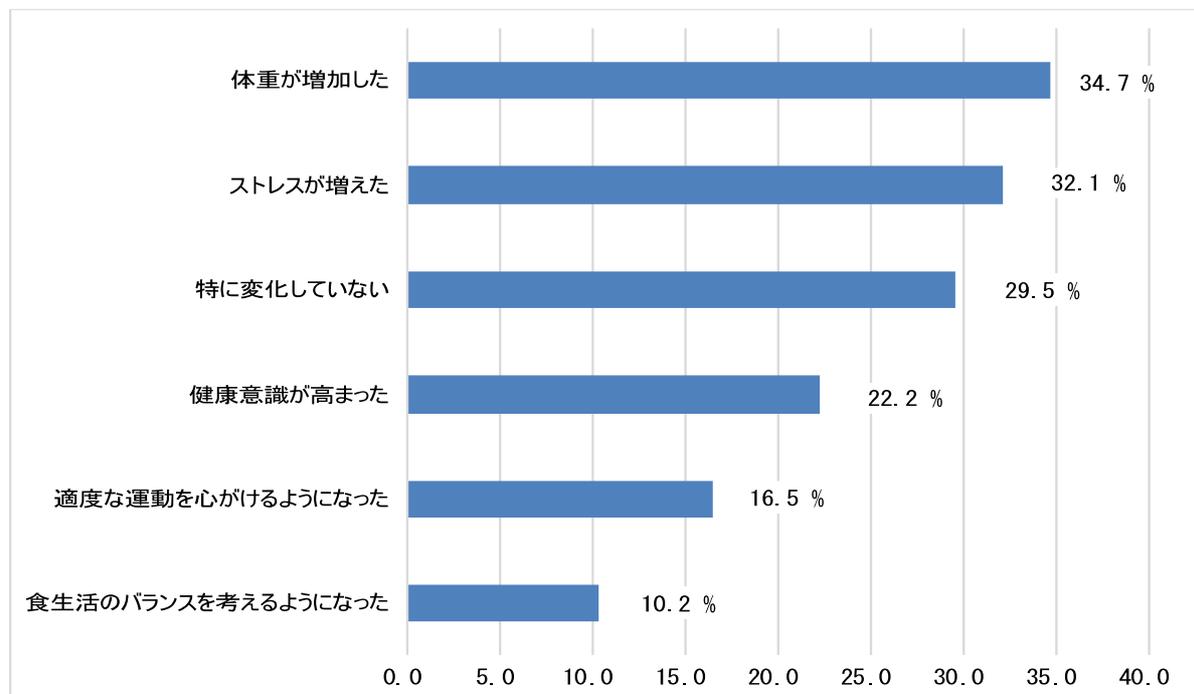


図 28. 新型コロナウイルス流行下での健康の変化